

## 会 議 録

- 1 会 議 名 第2回 山田緑地“30世紀の森づくり”アドバイザー会議
- 2 会 議 種 別 市政運営上会合
- 3 議 題  
報告1 遊具施設整備の進捗状況  
報告2 パルパーク事業の進捗状況  
報告3 陳情「山田緑地の利用区域について」  
議題 「コナラ林の管理について」
- 4 開 催 日 時 平成30年6月22日(金)  
13時30分 ～ 16時30分
- 5 開 催 場 所 山田緑地 森の家 映像室  
(北九州市小倉北区山田町)
- 6 出 席 者 氏 名 構 成 員 荒井 秋晴  
岩松 文代  
須藤 朋美  
竹松 葉子  
永野 昌博  
原口 昭  
松本 奈弓  
山口 典之  
関 係 者 岐部 宗任(山田緑地グリーンネット)  
真鍋 徹 (いのちのたび博物館)  
井場 隆二(山田緑地管理事務所長)  
川村 博孝(山田緑地管理事務所マネージャー)  
事 務 局 佐藤 泰司(みどり・公園整備課長)  
稲木 禎徳(設計係長)  
梅野 岳 (設計係)  
好井 飛鳥(設計係)

## 7 会議経過 (発言内容)

### ○報告 1～3

#### 【事務局】

- ・報告1～3について説明

#### 【会長】

只今、事務局が説明を行いました。3件の報告につきまして何かご質問等ありましたら、どうぞ。

#### 【構成員】

遊具は前回いろいろなことを皆が発言して、この3つになったということですが、これに絞った経緯は。

#### (事務局)

当初は9つの施設を予定していましたが、まずこの樹形遊具に関しましては、当初からこの遊び場のメインでシンボリックなものとして考えていたというところがありまして、選んでおります。樹形遊具が児童用遊具でありまして、児童用遊具というのは6才から12才ぐらいを対象にしているのですけれども、小さな3才から6才にあたる幼児のお子様も遊べるようにということで、トンネル遊具、テーブルベンチ遊具を採用しています。

#### (事務局)

すみません。ちょっと補足させていただきます。大型遊具、シンボル遊具でございますけれども、もともとエコプレイパークにあった、老朽化した遊具でございます、その更新ということで、もともとあった遊具は登るということを体験する遊具だったといったところで、今回、登ることを疑似体験できるといったところで、設置させていただくようなかたちで整備したいというふうに考えてございます。

#### 【構成員】

この陳情書について、その二つ目に関してお聞きしたいのですが、文章を読むと自然保護と自然との触れあいを目的とした場所である山田緑地ではなく、木を伐採したり焚き火で木炭を作ったりする趣旨に沿った実在の里山への実施を検討することということで、これ、今も既に活動の中に沿っているような感じに思えるのですけれども。山田緑地は自然保護と自然との触れあいを目的とした場所であると思えますし、

実在の里山を実施できる場所でもあると思うのですが、別に不都合がないというか、陳情の意味が分からないのですけれども、これについてお伺いしたい。

（事務局）

直接的には分かりませんが、これに先立っていろいろパルパークの取組みなどについて説明会などを行いました。その中でいろいろ意見をやり取りする中で、私の感じとしては、今まで山田緑地といいますと、30世紀の森づくりをテーマとした公園です、という言葉だけが走っているところがありました。ではそれを30世紀の森ってどのような森をどういうふうにとっているところの部分のPRといいますか、その辺の伝達が欠けていたと感じております。どのようにという部分は山田緑地の基本計画にきちり書かれているのですけれども、その辺のところを分かり易く咀嚼してですね、公園利用者や市民の皆様伝えていくような取組みというのを今後していかないといけないのかなと、そういった部分も誤解というか、こういった陳情につながったのかなと、あくまでも推測ですが考えているところでございます。

【構成員】

地元というか出身が北九州で自然保護関係の知り合いや、それ以外もいるのですけれども、この陳情の報道もありましたし、その関係もあって、パルパークプロジェクトのアドバイザーになったのですかというようなことを言われて、いやいやそうじゃなくてですねっていう、その辺の誤解を解く一苦労もあつたんですけれども、このアドバイザー会議が今年の2月1日から走るようになって、その時に既に我々はパルパークプロジェクトありきというか、こんなことが始まりますという形で聞いてアドバイザー会議に参加したんですけど、そういうお墨付きを得るために使われているんじゃないの、みたいなことを言われたりして、ちょっと戸惑ったんですね。そういうことではないと思いますというふうに返事して、きちんと我々は長いスパンで山田緑地の自然を考えていきたいなと思って、貢献したいと思っていますよと説明をしたんですけど、そういうことがありましたということ事務局に伝えておきたいということ、少なくとも一部の市民の方はそう思っているので、誤解を招かないような、そういう丁寧な進め方というのを、これからは期待したいというふうに思います。

【会長】

お墨付きではないという確認を前回、私もいたしましたけれども、事務局のほうからも何か今の件でどうですか。

（事務局）

市側とすれば、こういった専門の先生方、また市民代表の方からご意見、アドバイスを頂いた中で、それを市側のほうは事業にどういうふう反映させていくか、そう

いった形で進めていくと、それがこの会の趣旨だというふうに考えております。

【構成員】

市民の方々に説明する場合に、山田緑地の計画はゾーンに分かれていて、場所ごとに違った計画をしているということ、もう少し前面に出した方がいいかと思えます。実際には、利用区域の計画がどんどん進んで、それが中心にPRされていますけれども、保護区域や保全区域も、これからインパクトを持たせられるようにするという事です。調査研究も必要になるでしょうが、他の区域も表に出てきたときに初めて総合的に市民に理解されると思うので、区域、つまりゾーニングの全体をもっと公表していったらいいと思えます。

【会長】

市民に向けての理解を広く、広がるようにしていただきたいということです。いかがですか。

(事務局)

基本計画をしっかりと噛み砕いた形で表現するような形でホームページなんかにも準備をしているところでございます。利用区域とか保全区域とかの考え方をですね、またそれを基本計画にあるような、難しい言葉だけでダイレクトに記載すると、見たくないという形になりますので、できるだけ柔らかい形にしようと思えます。

もう一つはパルパークの取組みをやる前に、そういった山田緑地のコンセプトとか係わり方をお伝えした上で、活動に参加していくというような進め方を心掛けていくようにしております。なかなか地道な作業になっていくと思えますけれども、長い間、30世紀の森ということだけが伝わって、今のよう認識になっているので、きちんとした理解に変えるには長い時間がかかると思えますけれども、その都度、説明をして分かり易く理解していただけるように伝えていくように進めていきたいと思えます。

【会長】

是非、宜しくお願ひしたいと思えます。

【構成員】

パルパークのことなのですが、前回は似たようなことを言っているんですけど、今まで3回か4回の間は火を使わないかたちですけど、100人ぐらい来られるということなので、今後、冬に向かって火を使うようなプログラムになってきたときに、安全とか、ここの中だけで使うんで、絶対使っちゃいけないんだよ、というようなアナウンスとか、そのあたりはしっかりとっておかないと、と思うので気を使ってもら

って。

（事務局）

今、進め方について、他でやっているような事例を集めてですね、その辺のノウハウはBE-PALさんも持っていますので、そういったところにも相談しながら、またBE-PALさんのネットワークを使って情報等を集めていただいて、実際、第1回目やるときにはそれを反映したかたちで進めることを考えています。

【会長】

是非、安全には気をつけてやっていただきたいと思います。

## ○議題 「コナラ林の管理について」

（事務局）

・議題について説明

【会長】

只今、事務局より説明がありましたけれど、この件につきましてご質問がありましたら、お受けしたいと思います。ただ、この後、一時間ほど質疑応答の時間を設けますので、ここでは質問だけにさせていただきたいと思います。

【構成員】

現場をみてからの方がよいのかもしれませんが、実際に行う施業は、まずは現存する老齢木を皆伐して、そこからの萌芽を育て、それと同時に皆伐した後に実生を植栽して、20年間の成長をみて、20年後にまた施業する。まずは20m×20mが皆伐される。そういうイメージでよろしいですか。

（事務局）

そういうイメージです。それを20年間ずっと続けていきます。

## ○現地確認

## ○全体意見交換

【会長】

これから約1時間を目途に質疑応答、あるいはアドバイス、質問等していただきたいと思います。

どなたか、どこからでも結構ですので、ご質問、アドバイス等あれば、今現場でお話がいろいろ出ていましたけど、その中で議事録に残りますので、もう一度同じような質問をして頂いても構いませんけど、よろしく願いいたします。どうぞ。

【構成員】

まず、質問になるのかアドバイスになるのか分かりませんが、今回歩かせていただいた二の谷のところですが、もともとコナラに適した環境かどうかというのが非常に疑問に思われました。適宜、コナラと決め付けず、皆伐したうえでどういう植物が生えてくるのか見ながら、順応的管理、型にはめず、最初に管理方法を決めて森を作るのではなく、切ってみて出てきた植物を見ながら管理する順応的管理をしたらいいのか、というのが一つと、あとコナラっぽくない場所でしたよね、植物詳しくないので、何とも言えませんが、歩いた帰り道、アスファルト道路、川沿いの向こう側ですね、コナラっぽい場所だなと、今はコナラじゃなかったですけど、湿性生態園と二の谷の間の道、アスファルト道路の川の向こう側ですよ、あそこコナラがあると見た目良いのかなと、そして来園者がたくさん通る所にあるので、最初言われていた来館者とのコミュニケーションのツールとして一つ手かなと、(PPTを指しながら)この、谷の部分がコナラだと、非常に活動が来館者にも見える場所であると、コナラにも適した立地かなと、思いました。

【会長】

順応的な管理を考えるかどうかと、場所を少し別の場所を候補にしたらどうかと、これについて、事務局何かありますか。

(事務局)

最初に計画していたコドラートの入口のフラットの部分というのは、履歴を見てもともと軍の施設があって、造成されているので、少なくとも50年、公園整備するときにリセットされている裸地の環境だと言えらると思います。そこをスタートとしたのは、入口に近い、フラットだからとの位置づけである、そこは先生がおっしゃるように、今は若干湿地的な環境になっているので、ゼロだった場所、今の環境的なポテンシャルを引き出すような管理はどうかなと思ってますし、湿性生態園のこの場所はどうかという意見もありますので、まさにその場所は大事な、近い場所でもありますので、比較的傾斜の緩いところかなと思いますので、今後検討をしていきたいと思ひます。

【会長】

是非、検討をお願いします。では、ほかにありませんか。どうぞ。

【構成員】

印象としては、かつてコナラがあった森のように見えなかった。かつてコナラがあって、今は照葉樹林化しているとかそういうイメージは少なくとも今日見た限りではなかった。ただ、あそこで何か皆伐して材を使ってというのは特に強く反対するわけではないですけど、コナラありきというかコナラ林にするというのは考えずに、やっぱり皆さん同じ考えだと思うんですけど、今の植生を見ながらどういう森を作っていくか、たぶん、照葉樹林ではなく、やや明るい森を想定するのではと思うのですが、そこをいい意味でぼかせるという考えで、森を作っていくのが良いのではないかと、やはりコナラだけの単調な植生だと、どうしてもそこに生きて行ける種数が限られるので、何でもいいんですけど、エノキがあってもカラスザンショウがあっても良いし、一本でも立派な実のなる木があったり、虫がたくさんつく木があったりと、それだけでも、鳥の種数などはぐっと増えるので、そういう多様な明るい森を目指していただきたいというふうに考えています。

【会長】

是非参考にして下さい。これは、レクリエーションという植生管理の立場からして場所が限定されるということはあると思います。

(事務局)

そのときに参加者層をどれくらいの年齢とかに設定するかによると思います。ただレクリエーションとしてやっていくときに変化が見えてこないと動機付けになりにくい、変化が手に取るように分かると、自然に関わることで何かが変わっていくところを通じて、自然を学んでいく。そういった取組みがやっぱり今回、薪炭林管理の本質のところでありまして、コナラ林にとらわれず、といったところは、ご意見として賜って検討を進めていきたいと思っています。

【会長】

よろしくお願いします。ほかに何かございますか。どうぞ。

【構成員】

私もこの木を見て、薪炭林管理は難しいかなと。薪炭林にもししないのであれば、皆伐をする必要はないのでは。

(事務局)

そうですね。萌芽更新という方法ですから。

【構成員】

ですので、どういう植生の森林かというところで、やり方が変わってくると思うので、個別の植生を見た上で、どうやっていくか考えていく。伐採して別の植生にしていくとか。

一方で、薪炭林のほうですけど、実際薪炭林として利用されていた場所、ここは絶対薪炭林として利用されていたという場所があります？

(事務局)

コナラが結構残っている場所は、エコプレイパークがあった山のあたりは、かなりコナラがあります。その代わり、かなり急傾斜です。

【構成員】

今日見たエリアも標高が高いところに行けば、そういったところは、薪炭林としてなりうると思うのですけど。

多分、実際に使用されていた薪炭林は、利用しやすいから薪炭林であって、そういった場所を薪炭林にした場合には、うまく利用できるかどうか。

(事務局)

そうですね。

【構成員】

あくまで薪炭林として利用されていた場所をこういうやり方をするのがやり易い。

(事務局)

その状況は、当時のスナップ写真、あとは航空写真で、集落があった時代の航空写真ではないので、いろいろこれは私の考えですが、恐らく集落時代は使いやすい場所に薪炭林があったと、思われ、その使いやすい場所は弾薬庫として、造成されて施設が入ってきたので、当時使いやすい薪炭林であったところは、弾薬庫時点でかなり造成され、人工的なところになっていたのではないかなと、いうイメージを私は持っているところですけど、そこから弾薬庫が造成されてその後は放置されてきた、そういう土地利用の履歴なのかなって思うので、一番は集落時代の植生図っていうのがあれば良いのかもしれませんが、ここは聞き取りの中では、そこに田畑があって、ソバを作ってたとか、山からタケノコを取ってきたりとか、シイタケづくりをやっていたと。聞き取りレベルではあるのですけど

【構成員】

一方、現在では造成されて、薪炭林とは関係のない森林になってきているようなところでも、かつて薪炭林として利用されていたところであれば、コナラ林に誘導するこ



とは可能であると思います。

今の時点では、違った利用がされていたとしても、今後コナラ林として利用できる場所がどこにあるかを整理してみると良いと思います。

(事務局)

はい、そのあたりは、またお知恵を借りながら進めさせていただきたい。

【構成員】

この時点では、違ったとしても、そのように整理していくという事で。

【会長】

ほかによろしいでしょうか。どうぞ。

【構成員】

30世紀の森の計画の中で、基本計画の森の中で、保全地区というのをやっていて、その保全地区をどのように保全していくかというのを考える。今この会議の中で目的が、その地区をどのように保全していくかを考えるのであって、その保全をどうやって市民にアピールしていくかということを検討していくことになっているような、気がしてですね。

市民にアピールしていこうかという方向にもっていくときには、ほかの先生方が仰ったように、まず、見やすいところにもっていったりとか、今歩いてきた二の谷のところはコナラっぽくないので、別のところにしようかとか、それ以外にも今回かなり広い地域の奥のほうも、保全地区というので、その保全はどうするのか、を検討していかないといけないと思うし、今の話の流れだと、じゃあ、それが60何パーセントがコナラ林だとか、いやそんなにコナラ林じゃないよとかの話がだんだん出てきていますので、保全方針というのが、ガラッと変わって来てしまっているのではと、改めて、保全地区の保全方針は検討しなおさなければならないのではないのでしょうか。

【会長】

非常に難しい事ですけど、どのようにお考えですか。

(事務局)

まずは、基本計画を立てた時点の保全区域の考え方のイメージが立てられていて、今となっては文献、計画書から類推していくしかないのですが、実はそれは計画を立てた段階で保全区域の管理の目標というのが、履行されていなかったということで、20数年の間にいろいろ変わってきているというのがある。

今の状況がどういうことかと言うと、保護区域、保全区域、利用区域という形で、

考え方を分けている訳なのですが、保護区域、保全区域が実態としては一緒の状況となっていて、もしこのままの状況が続いていった場合、山田緑地の環境はどのようになるかと言えば、利用区域はこのまま公園利用するためひたすら草を刈るといった利用の仕方になっていって、一方、保護区域、保全区域はそのまま手をつけなくていいって照葉樹林化が進んで、2極化していくことが続く。それは長い目でみていくと、出てくる生物種、出現する種数が減ってくるだろうし、単調と言って良いかどうか分かりませんが、想定していた代償植生を中心とした多様な植生と段々ずれてきて、当初立てた30世紀の森づくりのイメージと大きく乖離してくると思うのですが、保全区域に手を入れて最初立てた目的に戻していく。少なくとも開園当初の状態に戻って行ってそこからまた、積み上げていくという形になると思う。また、手をつけなくていいこのまま保全区域をどうやっていいか分からない。

まずは、整備当初の段階に戻していくという考え方でこの谷の環境があると思うのですが、森の池と森のゲートの間の草地がどんどん樹林化が進んでいると。これがかなり劇的な変化である。ある程度手を入れていかないと、このまま樹林化が進んでいくということが想定されますから、どこから手を入れるかというのがある一つあると思うのですが。

#### 【構成員】

保全区域は手をつけていくと。だとしたら、どうやって手をつけていくか、広い目的とか方向性をつけていかないと、とりあえずこの谷で人の見えるところからという事ではなくて、例えばこの谷のところをどうにかしていかないといけない。草地のところも一つ問題であって、こういう事がしたいと、草地の部分は伐採したりとか、それぞれの場所で、どうする事で元に戻っていくかと、ある程度ざっくりとでよいので、計画を立てて順番にしていきます、とかいう形にしないと、今、保全地区をどうにかしますという事が出てきた話を、今、この谷をレクリエーションのための話であると、計画の保全地区、保護地区が見えてこなくなる気がしたんですけど。

#### 【会長】

難しい話だと思う。

#### 【構成員】

お金もかかるだろう。

#### 【会長】

予算の問題とか、意見がそれぞれ違っていると、ざっくりとでもそれを決めてしまうのは、なかなか難しい。1年かけてとか2年かけてとかなければ、別かもしれませんが。今すぐにやるというのであればできないと思います。

私が理解しているのは、とりあえず今回、こういうやり方で、いいかどうかは別としてやってみよう。

（事務局）

それはありますね。保全区域に対する関わり方の一つのスタートとして。

【会長】

というふうに理解しているのですが。とりあえずやってみようということに対して、問題はないかとか、先ほど皆さんが言ったように、問題点が出てきたりとか。

それから、レクリエーションの場としてどう使えるとか、そういうところを議論できればと思っております。で先生がおっしゃったような事は、この会議でどこまでやるかというのも私も分かりませんが、いずれその事は詰めないといけない。そうしないと、保全区域、管理計画とかきちっと立ちません。で、良いかどうか。

【構成員】

はい。

【会長】

それで事務局の方もよろしいでしょうか。

（事務局）

基本コンセプトの位置づけが先ほど申しましたとおり、保全区域、保護区域、利用区域、ここの考え方はしっかりやっていかないといけない。そこを基本として、考えていったときに、まずは、今まで先ほど話しましたように、保全区域はある程度手を入れていく、では、今までやっていなかったところを、どこからやっていくのかと、あまりに規模が大きすぎますので、どこが一番適当なのかと。その時、やる時にやはり、ここは都市公園というところで、やはり一方的にやってきているので、やっているところを、見える化じゃないですけど、そういったところでいろいろアドバイス頂ければと。保全している、手を入れているところが市民の方に見えないところでやるよりは、やはりこういった環境学習の取り組みができたらということで、ご意見、アドバイス頂けたらというふうに思っております。

【会長】

よろしいでしょうか。

【構成員】

では、同じような考えですけど、私も当然他の保全区域のことを考えていかないと

いけないと思うし、市の方も考えて下さると期待しているのですが、要は今回も利用に結びついた近いところが議題にあがっていて、それがやはりダイレクトにパルパークに結びついているのですね。なので、やっぱりパルパークありきじゃないのという印象を持たれることが少し心配であります。そこだけが、広報という形で出ると、もしかしたら、また誤解をまねくかもしれないということをお心配します。

冒頭でも山田緑地全体のこと、森づくりの事を考えていますという事を示した方がよいのではという雰囲気があったのですが、そこは注意深くしてやっていただけたらと思います。

【会長】

はい、ご意見としてお聞きしておきます。で少し行き詰まりましたけど、今回の議題である薪炭林管理をすることについて、ご意見があればよろしくお願ひします。

【構成員】

市民の方と一緒に管理していくということで、あそこをやるぞ、となった時に、色々な方がいらっしゃるので、ただ楽しいねという事だけで終われば良い人もいますし、上手くやれば木を切ったり、植物管理に長く付き合っていく人もいると思うので、段階によって維持管理まで関わっていくコースとか、もう一つは全体の計画、植物の話とかして行って、ゆくゆくは他の場所の伐採とかも手伝っていただくとか。木は切れなくても、切った木を運ぶとか、そういう工夫をした方がよいのではと思います。そういうところから伝えて行って、そんな簡単なこととか、危険な事はできないとかあると思うので。

【会長】

実際やる時に、コース作りをしながらやったらどうかという事で、参考にして下さい。ほかにございますか、どうぞ。

【構成員】

今日、道中で聞いた話なのですが、やる前にあそこの植生調査をしてから、やった後の経過をまた見ていくという話があったので、それは素晴らしい取り組みだなあと思って、まさに順応的管理をやるためには事前に、刈る前にやるというのが必要で、それは素晴らしいことなので進めていただきたいと思います。

【会長】

私もその件を思っていました。何らかの評価がいると思います。今後その評価をどうやっていくか、やったことに対して「それをどうか」と、「こんな効果があるのか」という評価をしていかないといけない。で、特に保全区域を今後どうやって管理して

いくかという一つの参考にしたいという考えがあるのであれば、余計、評価というものを考えないといけない。私もあわせて評価というのはどういうことを考えていらっしゃる、それをやる前に実際、いつからやろうとしているのか、スケジュールをお伺いしたいと思っています。

(事務局)

当初計画では、この秋ぐらいに調査に入って、冬場が作業の時期になりますので、この冬でというイメージをしています。現段階では…。その点はもうちょっとつめたほうが良いというお話はあれば…。

【会長】

それをこの冬からやった場合に実際に管理を実行する前のデータは全部とれますか？

(事務局)

それをしていこうという考えです。

(関係者)

何を知りたいかによってはできると思います。この秋の調査だけでもですね。例えば、樹木が皆伐した後にその植生がどうかわるかということを知りたいと思ったら、この秋だけの調査でも終えるかなとは思っていますが。植物が変わったら、鳥も違うでしょうし、特に昆虫なんかはかなり変わってくると思いますので、そこまでひくくめて知りたいと思ったら、秋だけでは難しいかも知れません。何を知りたいかによっては、可能な調査項目もあるし、不可能な項目もあります。

【会長】

今のところは生物相はどんな調査をお考えでいますか？

(事務局)

現段階では20m×20mの区画ですので植生という形だけで押さえていくイメージであります。

【会長】

他の動物相は？

(事務局)

他の動物相に関しては細やかな学術的な調査というところまではイメージしてい

ません。その後、どう展開していくかというのは市民参加、子どもたちと昆虫採集をしたりとか、そういったイベント的にやっていくというイメージはあります。

どのレベルの評価をしていくのかというところで、論文に耐えうるレベルのものにしていくのか？いやいや公園利用者に向けてこんなふうにこんなのがやってきたよというレベルなのかによって全く違うと思います。

【会長】

みなさん、それぞれ専門の立場からどんな風にお考えですか？

【構成員】

私は環境指標生物とか研究しているのですが、その観点から言うと、私、動物、昆虫が専門なのですが、植物を押さえれば最低限いいかなと思います。植物が増えるとそれに伴って動物、昆虫というのは増えていくのが鉄則というか決まりなので。昆虫はなかなか追うのが、一年通した調査をやらないといけないので、まずもって植物を指標にして追っていくのが現実的かなと思います。

【構成員】

20m×20mの中の昆虫相を調べても何も…。何が生えているかでよいのでは？

【会長】

私の専門の哺乳類でいえば、それぐらいでは何の変化もないので…。

【構成員】

鳥も同様なのですが、鳥で生物調査をするには少なくとも一年は追っていただきたいのですが、それが難しいのであっても、20m×20mを最初にやって、次の年もやって少しずつ区画が増えていくわけで、少しずつ環境が変わっていくと思うんですよね。だからそういう意味での継続調査はしていただきたい。それをやらないとこの二の谷をモデルケースにして、じゃあ他の区域をどうしていくとか、あるいは二の谷、やっぱりこれはまずいよねということで、どこかに立ち返るときのそういうときの客観データがとれないので、最低限モニタリングはしていただきたいと思っています。

【構成員】

私は植物の立場から、毎木調査とフロラリストは必要だと思います。

あとは環境のほうの評価、今後どのように経過していくのかを評価していくことが必要だと思います。重要なのは土壌。

【会長】

土壌組成だけではなくて？

【構成員】

一番良いのは、土壌断面調査をやるのがいいのですが、一番重要なのは土壌水分など、そういったデータを継続的に必要だと思います。

【会長】

調査としては最低限植生、それから土壌を含めて調査していただきたいと。参考にしていただきたい。

【構成員】

もしかしたらトンチンカンなコメントかもしれないですが、土壌のことで気になったのですが、例えばこの辺り、活動するのに一般の人が立ち入るのに危険だ、崩落しそうな場所ですよとか、そういうことも調べておくべきですか？あるいは調べておかないとこういう活動するときに心配だとかありますか？今すでにそういうデータがざっくりあるかもしれないですが……。

【会長】

地震が起きたときに崩れてしまうとか？

【構成員】

安全安心に関することで。

（事務局）

それは傾斜のデータとかで言えるかなと思います。等高線から傾斜のモデリングはできるから。あまり急勾配のところは危険ですから。

【構成員】

裸地になった時はどうか……そのあたりは難しいとは思いますが。

（事務局）

一方で今の状態だと草本層は薄く、土の層は弱くなっているかなと……。

【会長】

今の状態であれば、実行することは可能であるという意見が多かったですね。やり方の仕様とかはそれぞれご専門の先生に直接問い合わせていただければよいかと思えます。

【会長】

他に

【構成員】

森づくりのプロセスの観点から考えると、ここでやはり薪炭林の話にもどりたいのですが、今回の森づくりの流れは、たき火の利用をすることからきた薪炭用材の供給なんですよ。もともと、この保全区域の森をどうしようかというところがたしかに弱くて、パルパークの取り組みが先にあるような、そこがなんとなく森づくりが主導ではないような印象になってしまっている。この保全区域のあり方や可能性について、いろいろなアイデアを出しながら、植生をどのようにこれから保全していくのかというところをつくらないと、その先がないという気がしています。

今回見せていただいたところは、公園の全体でも使われているようにコナラ林という言葉を使っているのですが、多かった樹種だからこの言葉がついたのだと思うのですが、コナラ林を目指すのかというところではなく、この二の谷という区域をどうするのか、その樹木や植生全体はどうするのかということをお話し合っていていくことが必要だと思います。

人間の利用からみると、保護区域は野生に戻るという力にまかせる区域なので、あまり人間が影響しないと思うのですけれども、反対に利用区域は人間が作って行って、景観づくりをしていく区域ということがいえます。ここで、特に保全区域というのが、人間と森とのあいだではっきりしない部分ですので、森の中で何をしたらよいか、どんな森にしたいかによって植生を決めていくべきなので、やはり考えなくては。ここは百年という単位でしょう。まして千年ということになったら、次の時代に任せるのですが、まず今の時代に、百年の計画について、我々がどのようなことを考えたのかということを残したいと思います。

千年といたら、文明が変わってしまうレベルなので、もしかすると保護区域が利用区域になっているかもしれないし、山そのものが変わっているかもしれない長さですが、保全区域の百年というレベルで何をしたいかというのを今ここで決める。それが、20年後、30年後に多少変わってもよいと思うんですよ。前回の20年以上前の基本計画報告書を見ると、今の我々では作っていないようなプランも入っていたりするので、20年経ってこれだけ変わったということですね。ただ、そういう計画を記録していくことこそ、森と人間が作る保全区域の歴史になりますので、この議論を置き去りにしてはいけないなと思いました。



【会長】今のご意見について事務局

(事務局)

基本計画に保全区域の植生管理のあり方には「目標としている植生の維持を目的とした管理をしていく」とあります。それでは目標としている植生をどう捉えるかということになってくるかと思います。我々としては基本計画を立てたときの「目標とする植生」とは何ぞやというところを考えたときに、おそらく3つの考え方があると思っています。一つは目標としているのは集落“山田”があったときのイメージ。もう一つは弾薬庫のイメージ。もう一つは弾薬庫が放置されて若干移り変わりつつあるところ。その3つのどれに設定すべきかというところが……。まあ、基本計画には具体的にはかかれていません。じゃあどうしようかというときにいろいろと読み込んでみると、山田緑地というのは代償植生を中心としたようなパターンの植生がありますよ、これを維持していきましょうよという言葉がありますので、じゃあ山田緑地に残っている代償植生というのは、計画を立てた時点もそうですし、今どういう痕跡があるのかというのを見たときに、先に示したようにいくつか特徴的なところがありまして、それを復元というか、ひとつの代償植生、目標とする植生なのかなというふうなことで設定はしようと思います。

それではスギ林を復元するのかというのを考えると非常に悩ましいところではあると思います。いまだとスギ林は「えーっ」という所があるのですけども、もしかすると100年後にはスギ林をコントロールする技術が廃れているかもしれない。そういう時代を考えるとスギ林、人工林を維持する技術を継承するというのは非常に貴重なことかもしれない。そういう視点でみるとスギ林を復元していくことはすごく意味をもってくることになると思います。基本計画を読み込んでいったときも解釈としては植生の育成というのは、集落“山田”があった時代、そこで使われていた時代の植生を目標としているのだというふうに事務局としては解釈しているところです。

【会長】

ということですけどもお答えになってますでしょうか？

【構成員】

はい。

集落があったときというのはかなり昔なので、公園になった時の状況をどう考えるのかも気になります。

(事務局)

公園になった時点での植生をどう維持していくという解釈ということですか？

【構成員】

公園というのは、基本的に景観は見るものとして、見るためのデザイン、見て映える森をつくることからすれば、例えば、ちょっと放置したり、ちょっと手が入ったけれどもやめたような、こういうナチュラルというか自然な状態では見栄えがしないけれども自然であって、景観づくりとはちょっとずれているようなところをどう扱うのか。

例えば、その（事務局の PPT で示されている）かつての竹林の小道は綺麗だけれど、竹林の散策路は保全区域なのか利用区域なのかで、意味が違ってくる。集落に住んでいた人なら、散策路のために竹林を作ったわけではないでしょうが。ただ、この竹林が、今では樹林に変化してきたことについて、説明では荒れていると解釈されましたが、それは荒れているのではなくて、自然の力で変化をただけだととらえるなら、植えた後に自然の力に委ねた部分にすぎないという気もするので、この点は議論をつくさないといけないのでは。

（この竹林は利用区域ですが）保全区域ではこういった自然であればよいのかという答えはなくて、人間がどう関わるかにしか答えはないと思うので。

【会長】

先生がおっしゃることは非常によくわかるのですが、それが今すぐに解決できる問題ではないのですが、今お考えをいただいて、とりあえず具体的に示された今日のこの議題に何か支障があるということはありませんか？

【構成員】

この議題については、特別に異論はありません。

【会長】

この会議でどうか、どうかわかりますか、そういうことではありませんけれども、しばらくやめておいたほうがいいのかといったことになりますか？

【構成員】

やめておく必要はありませんが、今回はつっこみ過ぎたんでしょうか。どのあたりまで入って考えてよいのか分からなかったように感じています。

【会長】

じゃあ参考までに今後十分に検討していただくということで

（事務局）

基本計画をどう解釈をしていくかということは我々としても非常に難しいところがあるので、

【会長】

先ほどの意見もありますし、

【構成員】

同じ話だと思います。

それを上に考えるとこういうことをしないとどうか、念頭におかないとちょっと焦点がずれる。

（事務局）

基本計画の解釈の仕方の統一意見をどうつくっていくかというところになるかもしれませんが、計画を策定した時に委員会を立ち上げて議論をつくして作っているので、一つ一つの言葉の真意を聞き取っていければと思います。基本計画に書かれていることは概念的なところが多いので、解釈によってころころ変わってしまうのは非常にまずいと思いますので。

【会長】

その辺、整理するのに時間がかかるでしょうし、この話にかなり時間を割かないといけないでしょう。今後の課題としてよろしいでしょうか。

【構成員】

保全区域の目標としてコナラ萌芽林を残していくという計画、個人的にはコナラ萌芽林はすごく綺麗でそういうのをしてみたいなと思うけど、今回、設定を予定している区域ではちょっと綺麗な萌芽林にはなりそう場所があまりなかったようなので、せっかくだったら、それができるような場所を1、2ヶ所でも設定して、定例的なことができるような場所でやると、もしそういった場所が上の斜面にあるのであれば上級者コースでも設定してやるとかで、そういうのでやってほしいと思います。

【会長】

すぐ答えられるかわかりませんが、そういった場所はありますか？

（事務局）

今回の場所は「参加しやすさ」で設定したので、そこで先生がおっしゃるようにきちんと典型的な例として見せていくことを念頭におくと上級者コースのところになるかなと思います。

【構成員】

「見せる」だけなら、やってしまっただけなら、ただそれができているのを、それが散策コースであればこれが薪炭林だよと見せることができるし…。

(事務局)

もう少し精査してみます。

【構成員】

技術的な問題ですけども、どういう方法で伐採をするか、たぶん伐採はチェーンソーでやるのでしょけども、大径木の集材をどうやるのか、難しい問題になるでしょう。人が運べるものでもないですから、吊るのも設備をつくる必要がある。場合によってはヘリコプターを使うこともあるでしょう。そういった技術的なことも考えておかないといけない。こういった場所で行うかにもよりますが…。

もう一つは大径木があった場合それはどう使うのか、使い方もあらかじめ考えておいたほうがよい。

【会長】

集材と利用ということ。何か考えていることがあればお願いします。

(事務局)

提示したコドラートの設定は作業面でよりつきやすい所、集材の面を強くイメージしていた。管理効果と集材のバランスが取れる所をもう少し探してみることになる。材の利用については薪炭林管理と聞いていますが、全部薪でというイメージではなくて、大径木はベンチであったり、木工であったり、いろいろなプログラムで活用すべきだと考えている。小径木についても薪だけではなく、粗朶（そだ）にして護岸やカントリーヘッジなどでの活用を考えている。いろいろな活用の仕方を体験していく、これが技術の継承、文化の継承につながると思います。

【会長】

御検討ください。

他に質問ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

今回、みなさんから出た色々な意見やアドバイスを元に考えていただきたいと思います。

いろいろと検討していただくことも多いかと思いますがよろしく申し上げます。ありがとうございました。これで本日の議事は終了しました。会の進行にご協力いただきありがとうございました。これから先は事務局にお返しします。

